



Interview

環境性能の高い家で暮らすオーナー様にお話を伺いました。



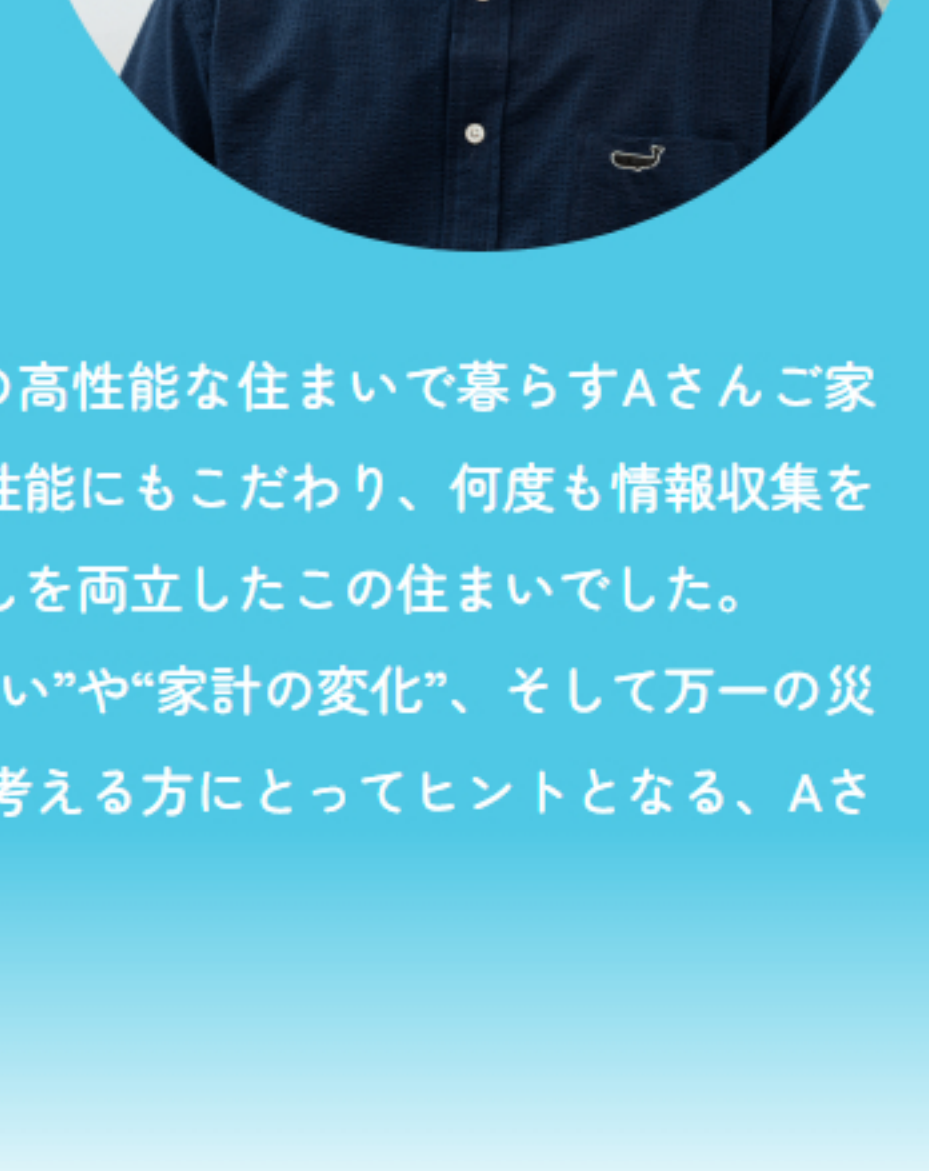
高性能住宅に暮らして、わかったこと。

「快適・省エネ・安心、そのすべてが体感できる住まい」

Customer's VOICE 住まい手の声

●お話を伺ったオーナー様

東京都 Aさん



断熱等級6（UA値0.34・C値0.13・BEI 0.40）の高性能な住まいで暮らすAさんご家族。マイホーム探しにおいて断熱性能・環境性能にもこだわり、何度も情報収集を重ねた末に選んだのが、快適性とエコな暮らしを両立したこの住まいでした。実際に暮らし始めてから感じた“体感温度の違い”や“家計の変化”、そして万一の災害時への備えまで……。これから家づくりを考える方にとってヒントとなる、Aさんのリアルな声をお届けします。



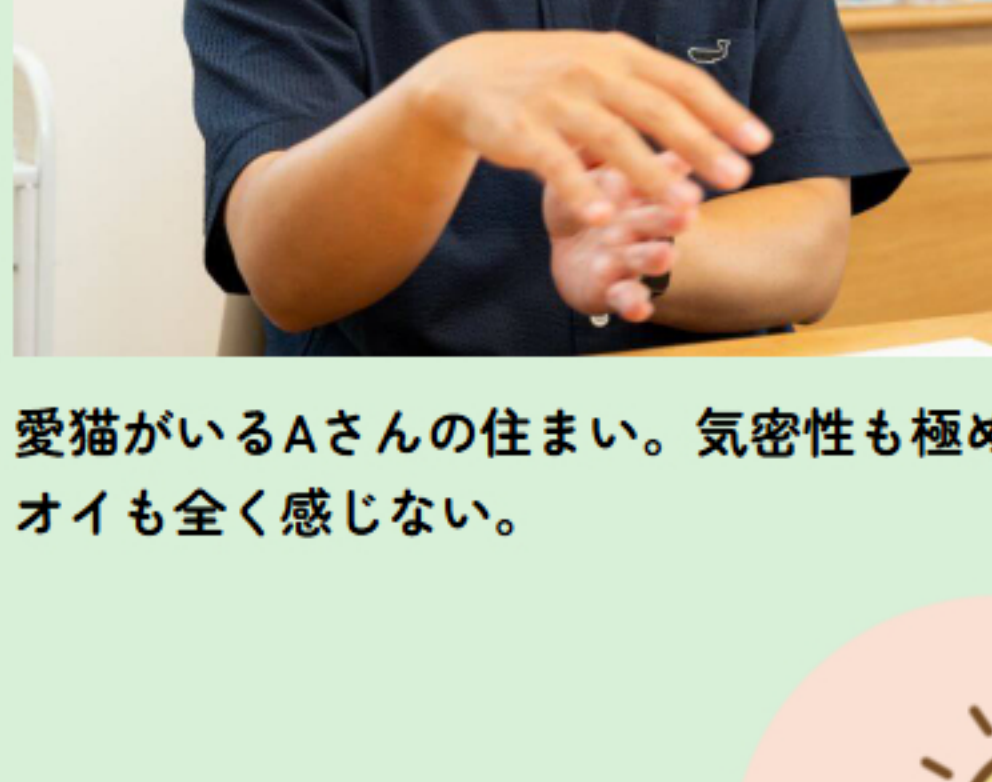
Interview 01

Q. 高性能住宅の暮らしは、いかがですか？

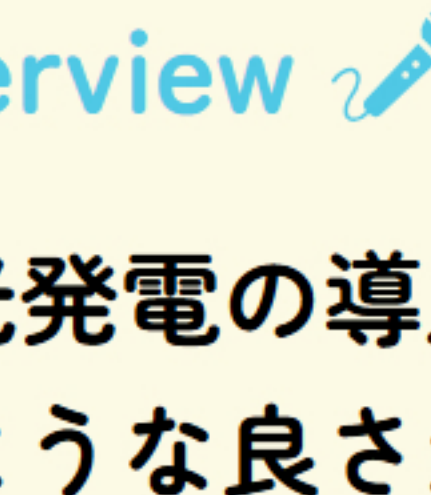
A. どの部屋にいても快適。温度差がないから健康的です。

本当に快適です。我が家は2階にエアコンが1台あるだけですが、それだけで家全体が涼しいです。玄関や廊下も暑くなくて、帰宅した瞬間から「ほっとする」心地よさがあります。冬も同じで、家の中が冷えにくく、暖房を強くしなくても快適に過ごせます。

以前のマンションでは、冬は朝から床暖房をつけないと寒くて歩けないくらいでしたが、今はその必要がありません。家族みんなで健康的に暮らせています。



愛猫がいるAさんの住まい。気密性も極めて高く換気効率がよいため、ペットのニオイも全く感じない。



Interview 02

Q. 太陽光発電の導入で、どのような良さがありますか？

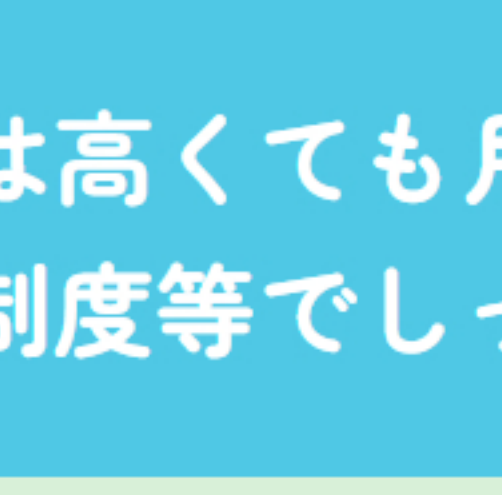
A. 家で電気をつくり使うのが嬉しいですね。停電時も安心。

太陽光発電と聞くと、以前は「電気を売るもの」という印象でしたが、今は「つくってそのまま使う」ほうが実感として大きいです。発電と同時にお湯もつくっているので、それを給湯して使うことができます。まさに暮らしの中でエネルギーを循環できている感じがします。

また、停電時でも、太陽光発電と直結していることで使える非常用コンセントもあるのでとても安心感がありますね。



屋上スペースの様子。太陽光発電：3.06kW＋エコワン100L（ハイブリッド給湯器）を完備している。



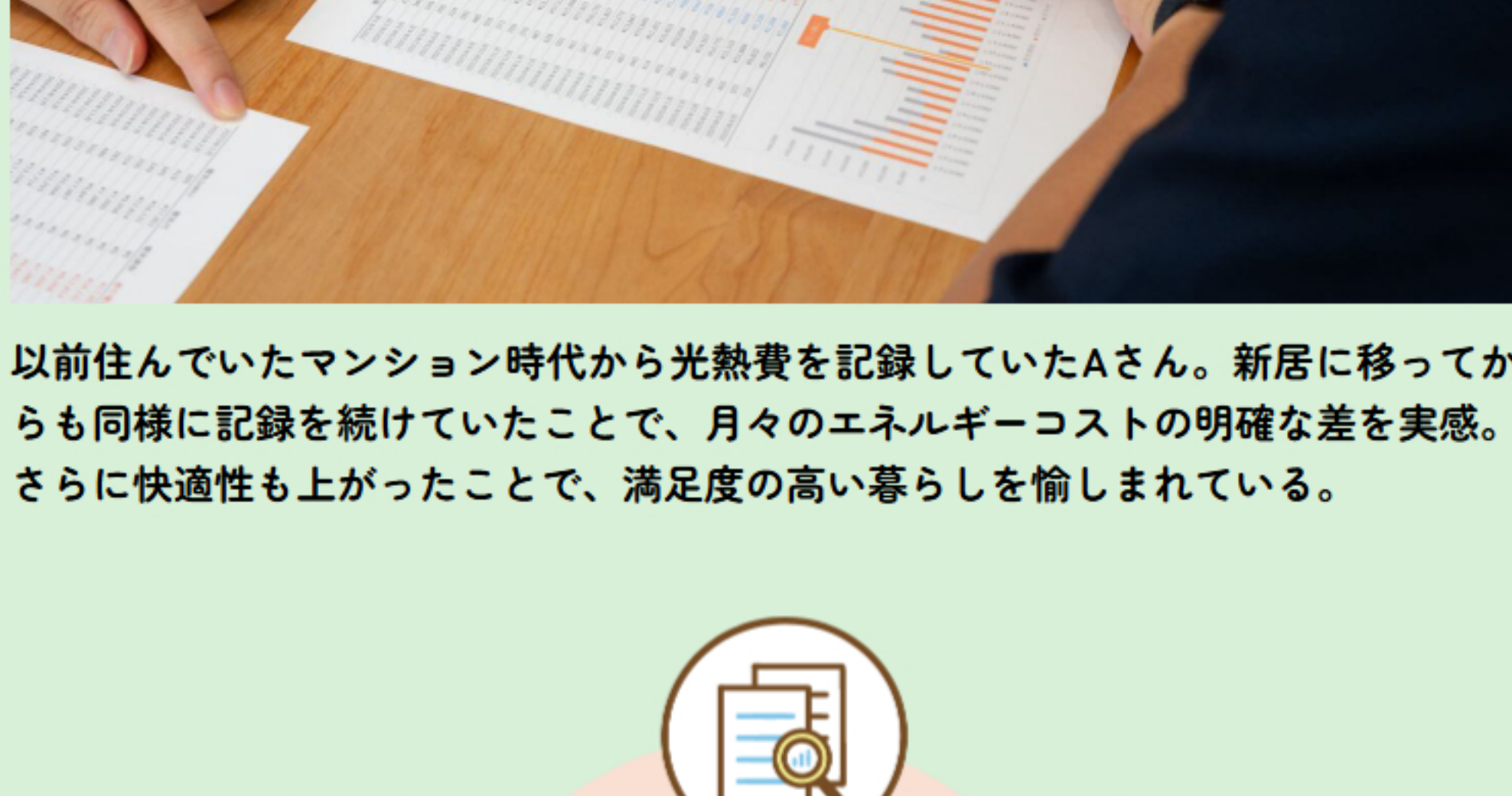
Interview 03

Q. 高性能住宅のインisialコストについてどう考えますか？

A. 最初は高くても月々の光熱費や補助制度等でしっかり納得。

マイホーム購入を検討した当初は、現在の住まいは予算をオーバーでしたが、末永く快適に暮らせることに魅力を感じ、思い切って決断しました。

実際に暮らししてみると、光熱費が驚くほど下がってびっくり。マイホームの費用だけを見ると最初は高額に見えますが、ランニングコストや減税・補助制度があることまで考えると、良い選択だったと感じています。



以前住んでいたマンション時代から光熱費を記録していたAさん。新居に移ってからも同様に記録を続けていたことで、月々のエネルギーコストの明確な差を実感。さらに快適性も上がったことで、満足度の高い暮らしを愉しまれている。



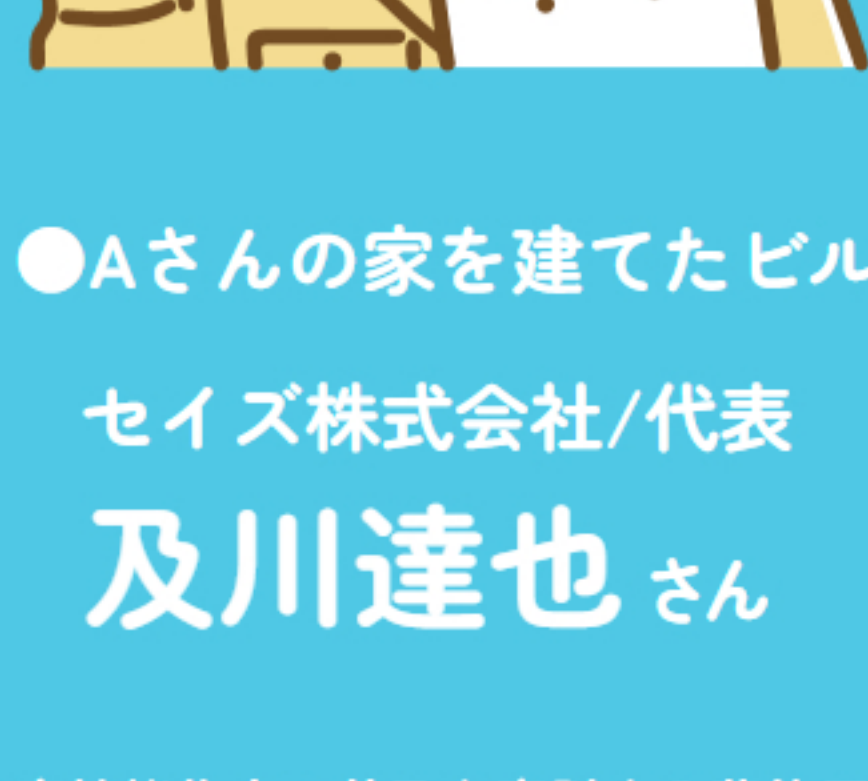
Message

Q. これから家を検討する方にアドバイスはありますか？

A. まずは現地へ赴き、積極的に実際の家を体感してください。

ネットや資料に書いてある「金額」だけで住まいを判断せずに、住宅性能などもしっかり調べたうえで、まずは「快適さ」を体感してみてください。そうすると何を優先するべきかなど、感じるものがたくさんあると思います。

今の家も、見学したときの玄関の涼しさ、住まいの心地よさで購入を決意しました。住まいの快適さって、体験してみないと分からないんですよね。とにかく行動を起こすことが、後悔しない家選びにつながると思います。



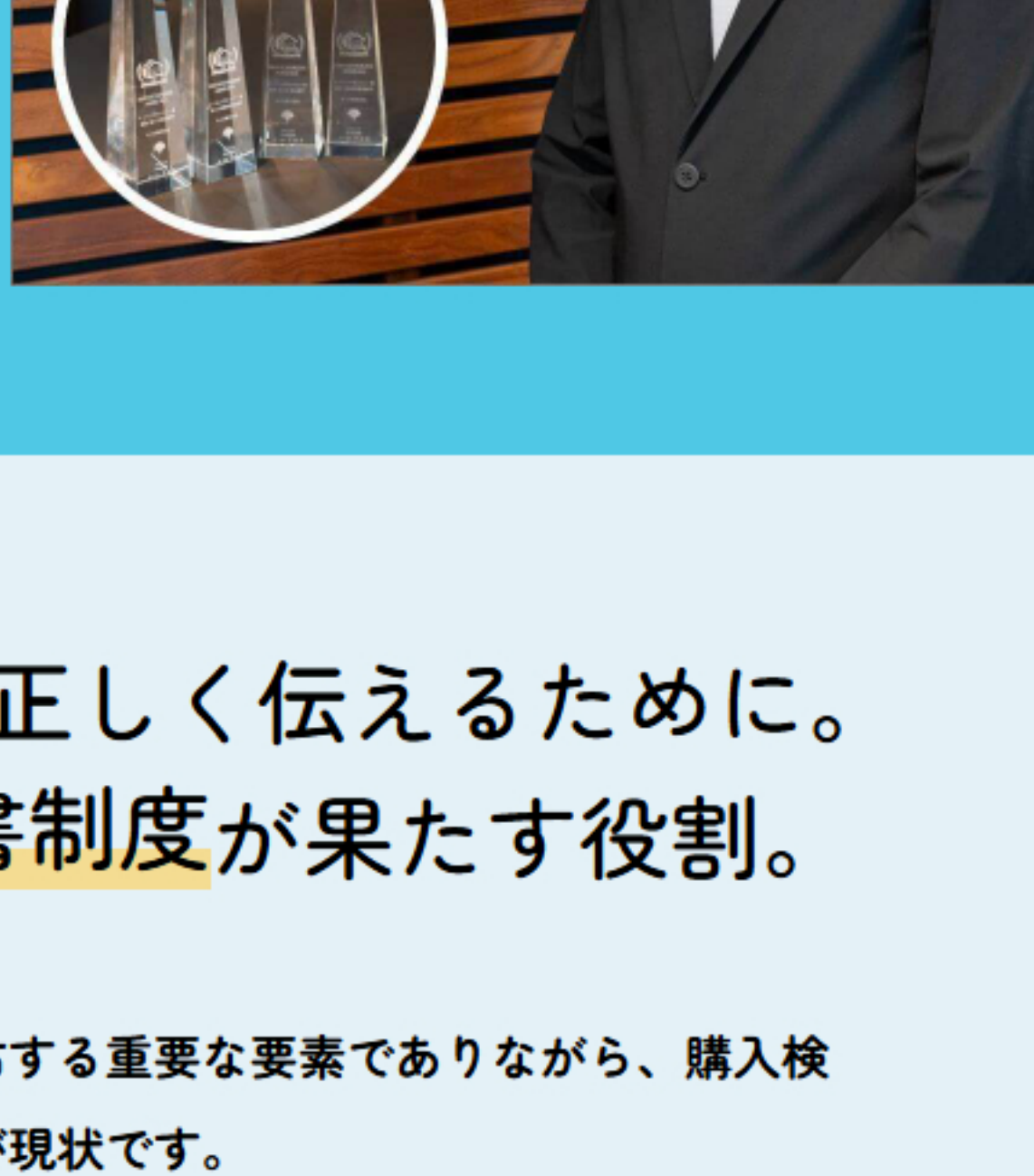
Builder's VOICE つくり手の声

●Aさんの家を建てたビルダー

セイズ株式会社/代表

及川達也さん

高性能住宅の普及を牽引する葛飾区の工務店。令和6年度「東京エコビルダーズアワード」では、建築物環境報告書制度の基準を先取りした取り組みにより、断熱・省エネ性能部門と再エネ設備設置量部門の2部門で「リーディングカンパニー賞」を2年連続で受賞している（※令和5年・6年度に受賞。右のトロフィー）。



見えにくい住宅性能を、正しく伝えるために。東京都建築物環境報告書制度が果たす役割。

省エネ性能や断熱性能は、暮らしの質を左右する重要な要素でありながら、購入検討段階では見えにくく、理解されにくいのが現状です。

そこで、こうした性能を数値として明示し、住まい手にも分かりやすく伝える取り組みが求められています。

東京都建築物環境報告書制度は、建物の環境性能を一定の基準で整理・報告する仕組みであり、情報の可視化を通じて、住宅の性能比較や選択を促進する効果が期待されます。単に義務として捉えるのではなく、私たち工務店にとっても「性能の質」を信頼とともに発信する絶好の機会なのです。



見た目や価格だけで選ばない。
住まいは「性能」で選ばれるべき。

住宅の価値を「見た目」や「価格」だけで判断する時代は、もう終わりつつあります。これから求められるのは、家族の健康や安心、将来の暮らしを支える“住宅性能”です。断熱性、省エネ性、耐久性といった目に見えにくい部分こそが、長く快適に暮らすために欠かせない要素。だからこそ、私たちは以前から、高性能な家づくりに真剣に向き合い実践し、丁寧に説明する責任を果たしてきました。

住まいの選び方そのものを見直す……。いま、そんな転換点に来ていると実感しています。



閉じる

